

2022 年度事業実績（見込み）及び 2023 年度事業計画について

資料 2 - 1

あいち森と緑づくり事業 2022 年度予算：2,580,683 千円、2023 年度予算：2,370,002 千円

1 森林整備事業（農林基盤局） 2022 年度予算：1,794,690 千円、2023 年度予算：1,631,536 千円

1) 人工林整備事業 2022 年度予算：1,719,654 千円、2023 年度予算：1,556,410 千円

ア) 人工林の間伐 2022 年度予算：1,600,435 千円、2023 年度予算：1,444,198 千円

林業活動では整備が困難な人工林の間伐を県が主体となって行う。中でも、防災・減災やライフライン確保の観点から、道路や人家への倒木、落枝や倒木による配電線の切断等の危険性が高く、早急に整備が必要な道路沿い・集落周辺や、流木対策のため間伐が必要と認められる河川沿いの森林の整備を重点的に実施する。

事業対象地	内容	全体事業量 (10年間)	2022 年度 計画	2022 年度実績(見込み)		2023 年度 計画
			事業量	実施箇所	事業量	事業量
・林業活動では整備が困難な 16～60 年生のスギ、ヒノキ人工林 (道路沿い・集落周辺・河川沿いを重点的に実施)	・調査、測量等 ・強度の間伐（原則 40%以上） ・伐採木の整理、集積（必要に応じて） ・伐採木の移動（道路沿い、集落周辺、河川沿いにおいては、原則、安全な場所まで移動） ・作業道の整備（作業効率向上のため）	16,000ha	1,600ha	犬山市、瀬戸市、岡崎市、幸田町、豊田市、設楽町、東栄町、豊根村、新城市、豊川市（10 市町村）	1,187ha	1,600ha

※ 森林所有者と県が転用禁止等を定めた 20 年間の協定を締結する。

イ) 次世代森林育成 2022 年度予算：119,129 千円、2023 年度予算：112,212 千円

森林が有する公益的機能を、将来にわたって持続的に発揮させるため、高齢化したスギ・ヒノキ人工林の皆伐後に行う花粉症対策苗木の植栽や、植栽後の獣害対策及び保育に対して支援することにより、森林の若返りと花粉発生源対策を推進する。

事業内容	内容	全体事業量 (10年間)	2022 年度 計画	2022 年度実績(見込み)		2023 年度 計画
			事業量	実施箇所	事業量	事業量
スギ・ヒノキ人工林を皆伐した跡地において、森林所有者等が行う植栽等に要する経費を定額助成	・花粉症対策苗木（少花粉のスギ・ヒノキや広葉樹の苗）の植栽 ・獣害防止柵等の設置 ・保育（下刈り・除伐）	450ha	47ha	岡崎市、豊田市、設楽町（3 市町）	11ha	47ha

※ 森林所有者と県が皆伐や転用禁止等を定めた 20 年間の協定を締結する。

2) 里山林の整備 2022 年度予算：75,126 千円、2023 年度予算：75,126 千円

手入れが行き届かず、竹の繁茂や枯損木が多く、鬱蒼として人々に利用されにくくなった都市近郊の里山林の整備を行う市町村に対する支援を行うことで、地域住民やNPO等が里山林を保全・活用し、快適な環境の形成や生物多様性の保全等の公益的機能を適切に発揮させるとともに、環境学習や保全活動の場として活用するなどの地域のニーズを支援する。

事業対象地	内容	全体事業量 (10年間)	2022 年度 計画	2022 年度実績(見込み)		2023 年度 計画
			事業量	実施箇所	事業量	事業量
・集落周辺等の里山林で、長期間手入れのされていない森林 ・整備後、地域住民や NPO 等の活動団体による保全活用が計画されている里山林	・森林調査、測量 ・施設整備（管理道、作業小屋、森林整備機材等） ・地域住民等では実施が困難な森林整備	40 箇所	4 箇所	小牧市、東郷町、常滑市、南知多町、岡崎市、豊田市、豊橋市（7 市町）※下線部は新規箇所	2 箇所 (継続 5 箇所)	4 箇所

※ 森林所有者と市町村と地域活動団体が、皆伐や転用禁止等を定めた 20 年間の協定を締結する。

里山林の保全・活用に関する正しい知識や技能を習得した指導者等の養成や里山林に関わる多様な人材の交流を推進する。

区 分	内 容	全体 事業量 (10年間)	2022年度 計画	2022年度実績(見込み)		2023年度 計画
			事業量	実施箇所		事業量
里山林保全活用指導者養成講座	・里山林の保全・活用に関する正しい知識や技能を習得した指導者等の養成	300人	30人	・養成者数 27名 内訳 (森の自然教育コース 7名 森女養成コース 9名 里山暮らしコース 11名)		30人
地域活動団体ネットワーク形成	・里山林に関する多様な人材の交流を推進	10回	1回	・開催 1回 NPO・グループ活動発表ひろばポスター展示		1回

2 都市緑化推進事業（建設局、都市・整備局） 2022年度予算：598,236千円、2023年度予算：549,339千円

都市における樹林地の保全・創出を図る事業や、民有地の緑化、県民参加で実施する緑づくり活動や都市緑化の普及啓発活動などへの支援を図るための事業に要する経費を市町村に交付する。

区 分	交 付 対 象 事 業	全体 事業量 (10年間)	2022年度 計画	2022年度実績(見込み)		2023年度 計画
			事業量	実施箇所		事業量
身近な緑づくり	・市街化区域及びその周辺で既存樹林地の保全及び環境改善、延焼防止などの機能を有する新たな緑地及び緑化施設の創出	125箇所	6箇所	あま市、半田市、大府市、西尾市、豊田市、みよし市 (6市)		5箇所
緑の街並み推進	・市街化区域及びその周辺で民有地の建物や敷地の緑化を進めるために、市町村が定めた緑化施設評価認定手法に基づく、良好な緑化の創出、並びに既存民有樹林地を活用するための園路整備等	1,100件	144件	名古屋市、瀬戸市、春日井市、小牧市、尾張旭市、豊明市、日進市、北名古屋市、清須市、東郷町、長久手市、一宮市、江南市、稲沢市、岩倉市、大口町、愛西市、あま市、半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、岡崎市、西尾市、碧南市、刈谷市、安城市、知立市、豊田市、みよし市、豊橋市、豊川市、蒲郡市 (36市町)		138件
美しい並木道再生	・沿道又は近隣に公共施設(駅・公園・役場等)を有する市町村道及び県管理道路の美しい並木道を再生する。	150箇所	17箇所	名古屋市、長久手市、尾張旭市、一宮市、稲沢市、津島市、あま市、知立市、豊橋市、豊川市、蒲郡市 (11市)		15箇所
県民参加緑づくり	・公有地において県民参加による樹林地整備、植栽、ビオトープづくりなどの緑化づくり活動、体験学習や都市緑化の普及啓発の実施 ・市民団体等の活動に講師を派遣	1,010件	110件	名古屋市、瀬戸市、春日井市、豊明市、日進市、清須市、長久手市、一宮市、犬山市、江南市、岩倉市、弥富市、半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、岡崎市、西尾市、幸田町、安城市、知立市、豊田市、みよし市、豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市 (28市町)		101件

3 環境活動・学習等推進事業（環境局）

2022年度予算：65,554千円、2023年度予算：60,196千円

森と緑の持つ様々な公益的機能の発揮のためには、森林、里山林、都市の緑の整備・保全事業とともに、県民や地域との協働による取組の広がりが重要である。このため、多様な主体による自発的な森と緑の保全活動や環境学習の一層の進展を図るため、NPO等を対象に企画提案型の交付金事業を実施し、活動に対する支援を行う。また、生きものの生息生育空間をつなぐ生態系ネットワーク形成の取組を推進する。

区分	事業内容	全体事業量 (10年間)	2022年度 計画	2022年度実績(見込み)		2023年度 計画
			事業量	実施箇所	事業量	事業量
環境活動・学習推進	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO等が行う自発的な森と緑の保全活動や環境学習への交付金事業 ・講習会及び活動発表・交流会の開催 	750件	75件	名古屋市、豊橋市、岡崎市、一宮市、瀬戸市、半田市、春日井市、豊川市、碧南市、刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、蒲郡市、犬山市、江南市、小牧市、稲沢市、新城市、大府市、知多市、尾張旭市、岩倉市、豊明市、田原市、北名古屋市、みよし市、長久手市、南知多町、美浜町、幸田町、設楽町、東栄町、豊根村、武豊町、清須市、日進市、高浜市 (38市町村)	103件	75件
生態系ネットワーク形成推進	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系ネットワーク形成の取組への交付金事業 ・生態系ネットワーク形成の取組の成果を「見える化」する生物多様性モニタリング調査 	70件	7件	知多半島地域（知多市、東海市、大府市） 西三河地域（岡崎市、幸田町、刈谷市、豊田市） 新城設楽地域（新城市、設楽町、東栄町） 東部丘陵地域（瀬戸市、長久手市） 渥美半島地域（田原市） 西三河南部地域（西尾市） 尾張西部地域（岩倉市、名古屋市、江南市、稲沢市） (7地域、18市町)	8件	7件

4 事業推進費（農林基盤局）

2022年度予算：122,203千円、2023年度予算：128,931千円

区分	内容	全体事業量 (10年間)	2022年度 計画	2022年度実績(見込み)		2023年度 計画
			事業量	実施箇所	事業量	事業量
普及啓発事業	木の香る都市づくり	20件	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・採択施設数 ・採択施設用途 オフィス、福祉施設、木育スペース等 	12件	3件
	全国植樹祭開催理念継承イベント開催	—	イベント 2校 苗木のスクールステイ 3校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の樹木を活用した森と緑づくりの体験活動を実施（阿久比町：1校、豊根村：1校） ・2023年度愛知県植樹祭で配布する苗木の育成を実施（豊川市：3校） 	イベント 2校 苗木のスクールステイ 3校	イベント 2校 苗木のスクールステイ 3校
	森と緑づくり体感ツアー等	—	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・体感イベント（昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、体感ツアーに替えて、11/5(土)にあいち海上の森センターで開催） ・パンフレットやリーフレット及びポスターを増刷し、関係機関やショッピングセンター、コンビニに掲示依頼し、また各種イベント等でPRを実施 	1コース 1回：39人	2コース 80人 シンポジウム 400名
推進事務費	<ul style="list-style-type: none"> ・あいち森と緑づくり委員会の開催 ・市町村説明会の開催及び事業調整等 	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会（対面開催に加え、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面開催と資料提供で実施） ・説明会随時 	—	—

5 「あいち森と緑づくり事業計画」に関する進捗

事業	区分	10年間 目標	1年目 2019年度	2年目 2020年度	3年目 2021年度	4年目 2022年度 (実績見込み)	5年目 2023年度 (計画)	合計 (4年目まで)
人工林 整備事業	人工林整備(間伐)	16,000ha	1,199ha	1,122ha	1,291ha	1,187ha	(1,600ha)	4,799ha
	次世代森林育成	450ha	10ha	13ha	6ha	11ha	(47ha)	40ha
	少花粉ヒノキ採種園、 広葉樹採種園の造成等	2棟 0.7ha	—	2棟 1.2ha	—	—	(—)	2棟 1.2ha
里山林 整備事業	提案型里山林整備	40箇所	4箇所	3箇所 (ほか継続2箇所)	4箇所 (ほか継続3箇所)	2箇所 (ほか継続5箇所)	(4箇所)	13箇所
	里山林保全活用 指導者養成研修	300人	33人	19人 ※新型コロナ影響 により1コース中止	27人	27人	(30人)	106人
	地域活動団体ネットワーク形成	10回	1回	1回	1回	1回	(1回)	4回
都市緑化 推進事業	身近な緑づくり	125箇所	8箇所	7箇所	4箇所	6箇所	(5箇所)	25箇所
	緑の街並み推進	1,100件	121件	136件	161件	157件	(138件)	575件
	美しい並木道再生	150箇所	11箇所	15箇所	15箇所	18箇所	(15箇所)	59箇所
	県民参加緑づくり	1,010件	118件	124件	144件	107件	(101件)	493件
環境活動・学習 推進事業	環境活動・学習推進	750件	107件	96件	104件	103件	(75件)	410件
	生態系ネットワーク形成推進	70件	7件	8件	8件	8件	(7件)	31件
普及啓発事業	木の香る都市づくり	20件	8件	17件	6件	12件	(3件)	43件
	全国植樹祭開催理念継承 イベント開催	—	イベント:2校 苗木のスクールステイ:3校	イベント:2校 苗木のスクールステイ:2校	イベント:2校 苗木のスクールステイ:4校	イベント:2校 苗木のスクールステイ:3校	(イベント:2校) (苗木のスクールステイ:3校)	イベント:8校 苗木のスクールステイ:12校
	森と緑づくり体感ツアー	—	2コース1回:60人	1コース1回:40人 新型コロナ影響のため 規模縮小し、体感イベント開催	1コース1回:38人 新型コロナ影響のため 規模縮小し、体感イベント開催	1コース1回:39人 新型コロナ影響のため 規模縮小し、体感イベント開催	(2コース:80人) (シンポジウム:400人)	4回 177人

2022年度 人工林整備事業（間伐）の取組について

1 人工林整備事業（間伐）について

林業活動では整備が困難な人工林の間伐を行っている。中でも、防災・減災やライフラインの確保の観点から、道路沿い、集落周辺、河川沿いの森林整備を重点的に進めている。また、伐採木については、災害時の被害軽減及び木材の有効利用を図るため、積極的に搬出を行っている。

2 取組事例について

事業地：豊田市加塩町ほか 地内
 事業面積：79.03 ha 搬出材積：350 m³（見込み）
 防災減災対策道路延長：3,300m



事業地：北設楽郡東栄町大字三輪字上奈根ほか 地内
 事業面積：11.64 ha 搬出材積：103.2 m³
 防災減災対策道路延長：1,300m



伐採木の搬出について

・搬出実績

年度	2019	2020	2021	2022(見込み)
搬出量(m ³)	1,563	3,434	5,416	5,433

・高性能林業機械やクレーン等を使用して伐採木を道路際まで集材し、トラックに積み込んで搬出を行っている。



グラップルによる集材（岡崎市）
 ※アーム先端に丸太を掴める器具を装着した荷役機械



木寄せウインチによる集材（豊田市）
 ※ワイヤーで丸太を引き寄せる荷役機械



クレーンによる集材（新城市）
 ※木を吊り上げて固定して伐採し、玉切り後、トラックに積み込んで移動



トラックによる搬出（豊根村）
 ※集材した丸太をグラップルでトラックに積み込んで移動

2022年度 人工林整備事業（次世代森林育成事業）の取組について

1 次世代森林育成事業について

森林の若返りを図り、森林が有する公益的機能を将来にわたって持続的に発揮させるため、高齢化したスギ・ヒノキ人工林の皆伐後に行う花粉症対策苗木の植栽及び獣害対策や植栽後の保育に対して支援している。また、シカ等により被害を受けた植栽木の補植と併せて行う獣害防止柵の補修を2021年度から補助の対象としている。

2 事業内容

区 分	内 容	補 助 率	補 助 対 象 者
① 植 栽 (補 植)	・花粉症対策苗木（少花粉スギ・ヒノキや広葉樹の苗）の植栽 ・原則、コンテナ苗を使用した密度1,500本/ha植えを標準	定額 ※県が定める造林 事業標準単価に 基づき交付	森林所有者 森林組合 林業経営体 等
② 獣害対策	・植栽に併せて行う獣害対策としての防護柵等の設置		
③ 下 刈	・植栽年度の翌年度から起算して1～5年目に行う坪刈り、各年度1回まで		
④ 除 伐	・植栽年度の翌年度から起算して6～10年目に行う除伐		

※ ②～④は①の施工地を対象とする。

3 取組事例について

【植栽・獣害対策】

- 事業地：北設楽郡設楽町津具字東山ノ神 地内
- 皆伐前の現況：スギ・ヒノキ 60年生
- 面積：0.32ha
- 植栽樹種：スギ45本、コナラ135本、クヌギ135本、
ウリハダカエデ75本、イタヤカエデ90本
- 獣害対策：獣害防止柵407m、食害防護資材（単木ガード）15本

【補植と獣害防止柵の補修】

- 事業地：豊田市稲武町川向 地内
- 面積：2.30ha
- 補植樹種：ヒノキ3,450本
- 獣害防止柵補修：313m
- 倒木処理：4本



植栽作業中



食害防護資材設置後



倒木により折れ曲がった獣害防止柵



獣害防止柵補修後

2022年度 里山林整備事業（提案型里山林整備事業）の取組について

1 提案型里山林整備事業について

手入れが行き届かず、人々に利用されにくくなった都市近郊の里山林を、地域住民やNPO等が環境学習や保全活動の場として活用するために、市町村が行う里山林の整備に対して支援している。

2 事業内容

事業内容	基本的な条件	補助率	交付対象者
<ul style="list-style-type: none"> 森林調査、測量 施設整備（管理道、作業小屋、森林整備機材等） 地域住民等では実施が困難な森林整備 	<ul style="list-style-type: none"> 市町村が地域の住民、団体等と協働・連携して、維持、保全及び利活用を継続して行うための計画を策定 市町村及び森林所有者と活動団体の3者で協定を締結 1事業地5ha未満（原則森林法第5条森林で保安林を除く） 	<p>10/10以内</p> <p>※1箇所あたり</p> <p>上限は30,000千円</p>	市町村

3 取組事例について

- 事業地：豊橋市大岩町字火打坂 地内
- 面積：2.50ha
(2022年度実施分：0.50ha)
- 実施内容：森林整備（広葉樹の伐採処理等）

【岩屋緑地に親しむ会による地域活動】



林内整理後の状況



事業地内（岩屋緑地）のコナラ林（20年生）を一部伐採しました。伐採木は「市民参加きのこ菌打ち体験」のほだ木として利用されています。



樹木粉碎機でチップ化し散策道に敷設



林内の枝葉整理活動



枯木の搬出活動



樹名板の設置活動

2022年度 里山林整備事業（里山林保全活用指導者養成研修）の取組について

1 里山林整備事業（里山林保全活用指導者養成研修）について

里山林保全活用の取組に多くの県民が興味を持ち、安全・安心に参加できるようにするため、里山林における活動を実践する能力を備えた指導者の育成が必要である。あいち海上の森センターでは、県民が身近な森林・里山林の保全や管理、活用に関する知識と技能を習得する「海上の森アカデミー」（3コース/年）を2017年度から開催し、人材の育成を図っている。

コース名	実施内容
① 森の自然教育コース	<p>“森で子どもと遊べる大人になろう”を目標に、里山や公園など身近な森林環境・資源を活用し、子供に自然と触れ合う機会を提供するための知識・技術を習得する。</p> <p>（2022年度実績：全4回、7名修了）</p> <p>第1回「木登りのプロから安全とロープワークを学ぼう」</p> <p>第2回「自然のプロから生きものとの遊び方を学ぼう」</p> <p>第3回「庭づくりのプロから遊び場づくりを学ぼう」</p> <p>第4回「木工のプロからナイフワークを学ぼう」</p>
② 森女養成コース	<p>森林ボランティア等、何らかのかたちで森づくりに関わる女性（＝森女（もりじょ））になるための基礎的な知識や技能を習得する。</p> <p>（2022年度実績：全6回、9名修了）</p> <p>第1回「森の健康診断」</p> <p>第2回「チェーンソーの使い方を学ぶ（1）」</p> <p>第3回「チェーンソーの使い方を学ぶ（2）」</p> <p>第4回「搬出・製材・加工」</p> <p>第5回「山の棚おろし」</p> <p>第6回「まとめ」</p>
③ 里山暮らしコース	<p>実際に里山と関わりながら暮らしている講師から話を聞き、里山の資源を活用したモノづくりの実習を通して、里山の価値を認識してもらうとともに、現代における里山資源の活用や人と自然の共生する里山の暮らしについて考えを深める。</p> <p>（2022年度実績：全6回、11名修了）</p> <p>第1回「山仕事 事始め」 第2回「やきもの①」</p> <p>第3回「草木染め」 第4回「やきもの②」</p> <p>第5回「やきもの③」 第6回「ミライの里山の暮らしを考える」</p>

2 取組の様子

① 森の自然教育コース



第1回（ブランコづくり）



第3回（遊び場づくり）

② 森女養成コース



第1回（森の健康診断）



第3回（伐倒作業）

③ 里山暮らしコース



第1回（薪割り）



第3回（草木染め）

2022年度 都市緑化推進事業（緑の街並み推進事業・県民参加緑づくり事業）の取組について

1 都市緑化推進事業（緑の街並み推進事業）の取組について

都市緑化推進事業（緑の街並み推進事業）では、市街化区域及び市街化調整区域内の既存集落で私有地の建物や敷地の緑化を進めるために、市町村が定めた緑化施設評価に基づく優良な緑化事業、並びに私有の既存樹林地を広く開放するために園路整備等を行う私有樹林地活用型事業を支援している。

○取組事例

【空地緑化・屋上緑化】

事業地：名古屋市昭和区

事業期間：2022年8月1日～10月31日

緑化面積：99.0㎡（空地緑化 約27㎡、屋上緑化 約72㎡）

植栽本数：高木4本、中木3本、低木170本

概要：名古屋市内のマンションの建築に合わせ、エントランス部の空地緑化及び屋上緑化を行った。



エントランス部

エントランス部
緑化状況

屋上緑化

2 都市緑化推進事業（県民参加緑づくり事業）の取組について

都市緑化推進事業（県民参加緑づくり事業）では、公有地において県民参加による樹林地整備、植栽、ビオトープづくりなどの緑づくり活動、体験学習や都市緑化の普及啓発を実施する事業、及びこれを市民団体が実施する場合の事業に対して支援している。また緑の活動を実施する市民団体を育成するため、市民団体等の活動に講師の派遣等をする事業に対して支援している。

○取組事例

【とよたガーデニングフェスタ2022】

事業地：豊田市西山町5-1（西山公園）

実施日：2022年4月29日～5月1日

参加人数：のべ約8,800人

概要：県民に都市緑化への理解と参加を促すことを目的として、ハンギングバスケットなどの体験講座、花苗・苗木・園芸資材などの販売の他、SDGsや園芸に係る講演会などを実施した。



会場入口



世界にひとつだけの花づくり講演会



親子で寄せ植え体験講座

実施状況

2022年度 環境活動・学習推進事業の取組について

1 環境活動・学習推進事業について

「県民共有の財産」である森と緑を次世代に引き継いでいく必要があることから、環境活動・学習推進事業では、NPOやボランティア団体など多様な主体が行う自発的な森と緑の保全活動や、日常生活の中で次第に失われつつある森林とのふれあいなどを体験・学習する機会の提供を通じて森と緑を社会全体で支えるという機運を醸成する環境学習について、交付金を交付して支援している。

2 事業の内容

交付対象事業		取組内容
環境保全活動	1 森・緑の育成活動事業	多様な生態系の保全やふれあいの場の創出など、健全な緑を保全・育成するための事業又は同取組を新たに立ち上げるために必要な事業 【例：多様な生物が生息・生育するための植物等の保全活動、ビオトープ及び周辺の自然環境の整備、新たな育成活動に向けた調査、自然環境管理計画の策定 等】
環境学習	2 水と緑の恵み体感事業	山・川・海のつながりや人をはじめとした生物が享受している水と緑の恩恵を学ぶ事業 【例：山・川・海のつながりを理解するための流域での体験学習の実施 等】
	3 森林生態系保全の学習事業	森林生態系の保全の大切さや手法を学ぶ事業 【例：自然観察会等を通じた森林生態系保全に関する環境学習の実施 等】
緑の教室	4 太陽・自然の恵み学習事業	地球温暖化対策等に役立つ緑の生育や木質バイオマスの利用等を通じて太陽や自然の恵みについて学ぶ事業 【例：緑のカーテンなど植物（緑化）の生育実習と環境学習講座の実施、木質バイオマスである薪・炭等作り及び利用体験を通じた環境学習講座の実施 等】
独自提案	5 独自提案による環境保全活動・環境学習事業	上記の1～4に該当しない創意工夫を凝らした独自の生物多様性に関連した環境保全活動及び環境学習事業

*NPO、ボランティア団体、農業協同組合、漁業協同組合、森林組合、自治会、私立学校等及び市町村を補助対象者としている。

3 取組事例について

○事業主体：西尾市

○事業内容：緑のカーテン事業（4 太陽・自然の恵み学習事業より）

- ・自分達でゴーヤを育てる経験をすることで愛着が芽生え、植物を大切にしようとする気持ちを育むことができた。また、緑のカーテンがあることで涼しくなることを体感し、緑のもつ力や役割に気づくきっかけとなった。
- ・地域や保護者の方と一緒にゴーヤの苗を植えたり緑の教室で学んだことを家族に話したりすることで、家庭でも植物を育て始めたり自然に関する会話が増えたりする等、周りの大人へも刺激となった。
- ・里山や身近な植物について講師から話を聞いたり自然物を使っていろいろな遊びを楽しんだりしたことで、自然に親しみを感じたり興味を深めたりすることができた。



ゴーヤの苗植え



身近な自然物を使った遊び

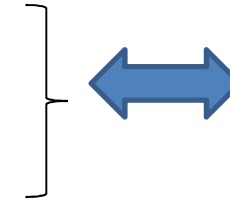


紙芝居・木の実のクラフトづくり

2022年度 生態系ネットワーク形成推進事業（生物多様性モニタリング調査）の取組について

1 背景

- 県内9つの地域の生態系ネットワーク協議会が、各地域における生物多様性保全に関する取組を展開。
- あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金により、県民（NPO等）による保全の取組が活発化。
- SDGsの普及、ISO14001改訂（生物多様性配慮の義務化）、ESG投資の活発化などにより、企業の生物多様性保全活動への意識が向上。



（課題）

- ・活動の成果が見えない、実感できない。
- ・各団体の活動がバラバラ。
- ・生き物の変化が不明で、目標・計画作りが難しい。

2 目的

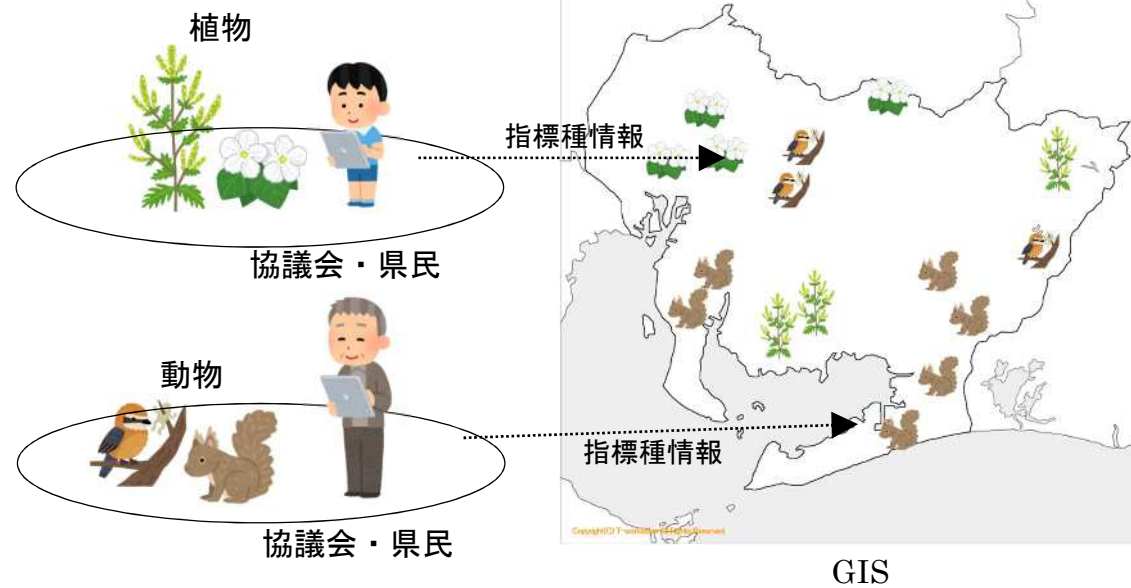
- 当地の生物多様性の指標となる種（以下「指標種」という。）を定め、これを調査することで現状を把握する。
- 指標種の生息生育状況をモニタリングすることで、「自然環境の変化」や「生物多様性保全の活動成果」を認識できるようにする。
- 生態系ネットワーク協議会を中心にして実施し、生態系ネットワーク形成の見える化を図る。
また、県民参加型で実施することにより、自然環境に関する県民意識の向上を図り、生物多様性保全の活性化につなげる。

3 概要

【調査の事前準備】

- ① 調査対象指標種の選定及び調査方法の構築（2017, 2018）
調査対象の指標となる「植物」50種、「動物」50種を選定するとともに、県民向けの調査方法を構築しマニュアル化した。
- ② 見える化ツール（GIS）の整備（2018）
県民が参加しやすい仕組みを作るため、指標種の種類、位置などの情報を地図に落とす地図情報システム（GIS）を整備した。
- ③ 生態系ネットワーク協議会への協力依頼（2019～）
協議会を中心とした県民参加での調査を推進するため、協議会に対して理解、協力を働き掛けている。

【調査のイメージ】



【生き物調査の効果】

- ・生物多様性保全の取組成果の見える化→取組の活性化
- ・課題・目標・成果の共有
- ・県民意識の向上、参加拡大

〈スケジュール〉

2017年度	2018年度	2019, 2020年度	2021年度	2022年度
・調査対象となる「植物」50種の選定	・調査対象となる「動物」50種の選定 ・調査方法（植物・動物）の構築及びマニュアル化 ・見える化ツール（GIS）の整備	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">生き物調査の実施</div> ・9協議会で導入事業 2019年度：5協議会 2020年度：4協議会	・継続実施 （5協議会：尾張北部、知多半島、西三河、東三河、新城設楽）	・継続実施 （4協議会：尾張西部、東部丘陵、西三河南部、渥美半島）

4 2019～2022年度のモニタリング実施状況（2023年1月末時点）

2019年度：知多半島、西三河、尾張北部、東三河、尾張西部の5協議会で導入事業実施。

2020年度：東部丘陵、新城設楽、渥美半島、西三河南部の4協議会で導入事業実施。尾張北部、西三河の2協議会で交付金事業として実施。

2021年度：知多半島、西三河、尾張北部、東三河、新城設楽の5協議会で実施。

2022年度：東部丘陵、渥美半島、西三河南部、尾張西部の4協議会で実施。

調査開始年度	協議会	主な調査場所	2019データ投稿数	2020データ投稿数	2021データ投稿数	2022データ投稿数	調査テーマ																				
							①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮						
2019	知多半島	東浦自然環境学習の森（東浦町）、(株)豊田自動織機東知多工場（半田市）、大同特殊鋼知多第2工場（知多市）	56			0	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●									
2019	西三河	境川源流域（みよし市）、ソニー幸田サイト（幸田町）、小呂湿地、北山湿地等（岡崎市）、トヨタの森（豊田市）	183	42		17	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●								
2019	尾張北部	八曾湿地・善寺野（犬山市）、兒の森（小牧市）、高蔵寺運動場周辺の庄内川（春日井市）	37	123	5	12		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●								
2019	尾張西部	弥富野鳥園（弥富市）、大野極楽寺公園（一宮市）、戸田川緑地（名古屋市）、豊田合成(株)平和町工場（稲沢市）	122			291		●	●	●		●	●	●	●	●	●	●									
2019	東三河	朝倉川・豊橋公園（豊橋市）、久保神社・東三河ふるさと公園（豊川市）	123	10	201	52		●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2020	東部丘陵	戸田川緑地（名古屋市）、蛇ヶ洞川（瀬戸市）、香流川（長久手市）		182		15		●	●	●	●	●	●	●			●		●								●
2020	新城設楽	きららの森、千年の森（設楽町）、のき山学校（東栄町）、鳳来寺（新城市）		269		15		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2020	渥美半島	赤羽根海岸（田原市）、葦毛湿原（豊橋市）		614		18	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2020	西三河南部	愛知こどもの国（西尾市）、佐久島（西尾市）		54		32	●	●	●	●	●	●	●					●									
生態系ネットワーク協議会 合計			521	1,294	206	452																					
その他も含めた合計			4,635	2,733	2,131	5,094																					

【調査テーマ】

動物		植物	
①	身近な哺乳類	⑨	タンポポ地区
②	身近な野鳥	⑩	春の水田雑草
③	池や水路のカメ	⑪	秋の七草調査
④	身近なカエル	⑫	湿地の植物
⑤	トカゲ・ヤモリ・イモリ	⑬	里山の植物
⑥	川や池の魚たち	⑭	ニホンジカによる食害
⑦	林や草地の昆虫	⑮	監視したい外来植物
⑧	水辺のトンボ		



○調査の様子
 上：新城設楽生態系ネットワーク協議会
 下：東三河生態系ネットワーク協議会

5 今後の実施に当たっての課題と対応方針

課題・問題点	対応状況
1 発見データを多くの人から継続的に投稿してもらう必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度から協議会への委託事業としてモニタリング調査を行っており、多くの県民に参加を呼び掛けている。 2020年度の地区間交流会にてモニタリング調査の報告会を実施し、2021年度の交流会にて調査手法等に関する研修を実施した。 投稿者のシステム入力の手間を簡素化するため、ラジオボタンを導入する等の「指標種チェッカー」の改善を図っている。
2 投稿データには誤った情報が紛れているが、個々のデータの正誤を判断する仕組みがなく、原則そのまま公開される。	<ul style="list-style-type: none"> 投稿データの信頼性を確保するため、2021年度から専門業者に依頼し、データ精査を行っている。 システム改修により、写真や音声の添付を必須し、データ送信前に投稿内容の再確認ができるよう、チェック項目を設けている。
3 希少種データが公開されると、盗掘されるリスクがある。	<ul style="list-style-type: none"> 希少性の高い生き物（レッドリスト掲載種・湿地性動植物）については、従来はその保護の観点から非表示としていたが、2020年度に「希少種等メッシュマップ」を整備し、希少種についてはメッシュ状（5km）の表示としている。
4 集まったデータを多様な主体（各協議会、NPO等）が有効に活用できる方法を示す必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度の地区間交流会にて、「指標種チェッカー」の活用方法に関する研修の実施し、データの活用方法等に関する事例紹介の場を設け、システムの活用促進を図る。

2022年度 普及啓発事業（木の香る都市づくり事業）の取組について

1 木の香る都市づくり事業について

全国植樹祭の開催理念を引き継ぎ、都市部の木造・木質化を通じて、県民の森と緑に対する理解を深めるため、多くの県民が利用するPR効果の高いモデル的な施設の木材利用に対し支援している。

2 取組事例について

- 施設名
鳥森オフィス（賃貸オフィス）
- 所在地
名古屋市中川区鳥森町地内
- 事業主体
名古屋ステーション開発株式会社
- 事業内容
施設の木造化
- 施設の規模・構造等
 - ・ 木造2階建
(延べ床面積 1,951 m²)
 - ・ 木材使用量 436.91 m³
(うち県産木材 188.77 m³)
- 施設年間利用者数（予定）
40,000人
- 竣工：2023年6月末予定
(建て方完了：2023年2月末)

3 施設の特徴

施設はトラス構造*の採用等により、木を現しつつ、柱のない広いオープンスペースを確保し、開放的なオフィス空間を創出している。内部からは県産木材を使用した屋根大梁や2階床梁を見ることができる。

(※トラス構造とは、部材を組み合わせた三角形を単位とした構造骨組の一種で、大きな空間を作ることができる。)

JR関西線、あおなみ線、近鉄線（約800本/日、約10万人/日）に囲まれたエリアに立地し、鉄道の車窓から施設のガラス張り外壁を透して特徴的な木構造を見ることができる。

